

遠い島の友へ……

混声合唱とピアノのために

text: 李静和

(2005)

高橋悠治

合唱連盟「虹の会」委嘱

序

(語り)

女声：
遠い島の友へ…… Li Jong-hwa
(李静和)

男声：
Yun Dong-ju 「たやすく書かれた詩」
(尹東柱)

女声：
朝鮮半島の南にある濟州島。
島全体を包むように島の真ん中にある山、ハンラ山(1980m)には
島の人の背より遙かに高い、太いスキの森があり、
海から風が吹くと、錆付いた鉄のぶつかる音を出しながら揺れ動く。
その風景はまるで巨大な波のようだ。

男声：
濟州島4・3事件。濟州島4・3蜂起ともいう。
一九四八年四月三日、ハンラ山の峰々をつたう烽火があがって以来、
六年六カ月も続いた島ぐるみのパルチザン闘争、
血みどろの事件である。
その間、
「党内の七万五七〇〇戸の家屋のうち
一万五二二八戸が焼き払われ、
八万六五名が殺傷」された
という記述があるが、
タブー視されてきた4・3事件の真相については
まだ不確かな部分が多い。

遠い島の友へ……

混声合唱とピアノのために
text: 李静和

Piano



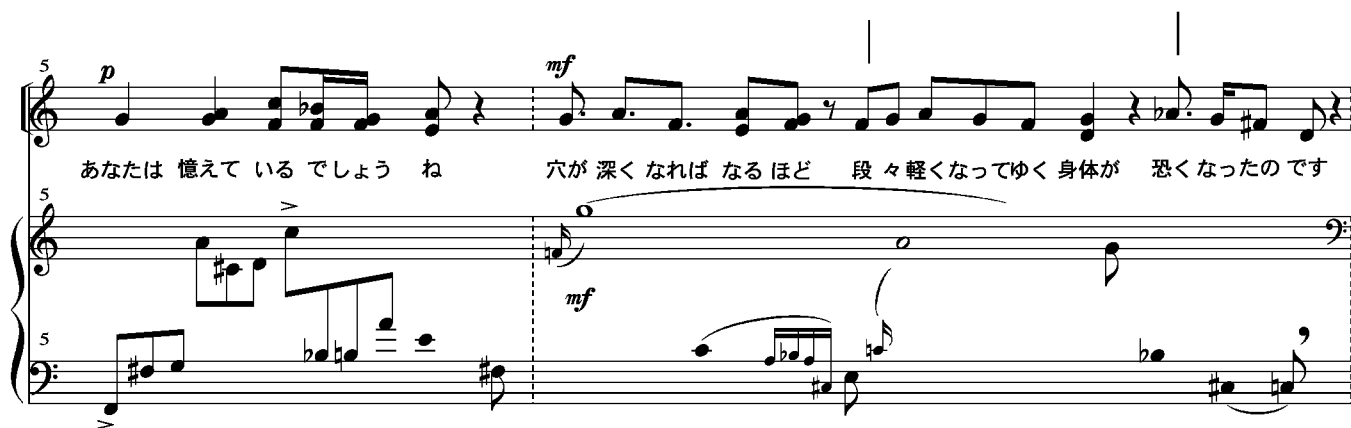
女



あなたの居る島にも ススキに 乗せられたあのかぜが吹いているのでしょうか



いくら みみを塞ぎ 身体を縮めても す ーつと胸の中に 穴を掘ってしまうあの風を



あなたは 憶えている でしょうね 穴が深くなれば なるほど 段々軽くなってゆく身体が 恐くなったのです

Piano



9 *mf*

女

遠いある日 あなたもそう思ったのでしょうか 私は いまこうして 昔 あなたが 移って来たところに 居ります

Piano

mf *p*

11 *f* *mf*

男

ま ————— どのそとに はるさめが ささやき

f *p*

14 *mf* *p*

六畳部 屋は ひとのくに 詩人

(他人)

f *p* *f*

17 *mf* *mf* *sub.p*

とは かなしい天命 と知りつつも 一行の詩を 書きとめてみるか

p *f*

20

23 *f* (尹東柱) Yun Dong-ju *mf* た や す く 書 か れ た 詩
 Yun Dong-ju haneul gwa baram gwa byeol gua shi
 (空と 風と 星と 詩)
 (語る) *mf* ha-neul gwaba - ram gwa byeol gua shi

23 *mf*

女 25 *mf*
 あなたは ある日 こう 言いまし た

25 *f* *p* *mf*

男 27 *mf*
 私は 世界観— 人生観— この ような より 大きな 問題 より

27

28 *mf*

風と雲と光と木と友情

p *mf* *p*

かぜとくもとひかりと木と友情 そのようなことにもっと苦しんで来たかもしれませんと

女 30 *mf*

島の人達は白い森になって山を取り囲んでいる ススキを畏れていました 小さな島の殆どの人が死んでいた

Piano 30 *mf*

32

その日以後 その魂は 島を離れられなく ススキになり いつも

32

34

島をさまよっていると信じていました かつてふねにのって 島に帰れなかった人々を懐い

34 *mf*

36

遠い海にはもうひとつの島が在り 彼らはなんの苦しみのないあの島に

36

38

いるのだと 語っていた 島の人達は 山に埋められた 兄弟 達 さえも 忘れようとはしなかったのです

39

海の 向こうには hwan-sang eui seom i - yo-do 山の 土には ススキの 塊

幻像の 島 イヨド

43

風と 一体に なって いつまでも 島に 付き纏う 魂 [語り] 魂 その島の ことを もう一人の 友人は

47

ba - ram tha-neun seom と よんで いました う み から 帰ってくる か ぜ が

51

山の ススキを 抱え こむ ときは いつも 汗に 濡れた 濃い 人の 匂いが していました

54

か え り み れ ば お さ な と も だ ち を

男

Piano

56

ひとり ふたりとみな うしない わたしは なにをねがい ただひとり

58

おもいしずむのか 人生は生きがたいものなのに 詩が こう

60

たやすく書けるのは 恥ずかしいことだ

p

女

62

風の無いところ 風の匂いがしないところへ 行きたかったのです そして

p

64 *mf*

さびしいときは くさばひとつも いとおしい

p

mf

67 *p*

空 いっぱい スモッグ の なか に いまも 生きている 大地

そら いっぱい スモッグ の なか に いまも 生きている 大 地

mf

mf *p* *f*

70 *mf*

あ - すずめ ささやき いまも はな が さき そらには しろくももな が れ る

mf

mf *f*

73 *p* *f* *mf*

男 アパートに かがみすわり 虚空すこし ながめられ わたしの生—いまは よろしい

76 *mf* *p* *mf*

と 咳いて みたい です そして

p *p* *pp*

ありがたい なみだくむ Kim Ji- ha (金芝河)

79 *p* *mf* *sub.p* *mf*

ほんの少しでもいから 短い線のあるあの手に ながい やわらかいあのみに

mf *p* *mf*

女

81 *p*

堅い横骨のある いとおしいあ裸足に さわりたいと思うのです

p

83 *mf* *f*

他でもないこの空間で

p

六畳部屋はひとのくに (他人)

f

85 *mf*

まど の そと に はる さ め が さ さ や い て

mf

87 *mf*

いるが あかりをつけてくらやみを すこし追いやり 時代の

90 *p*

わたし

ように おとずれるあさを待つ 最後のわたし わたしはわたしに

93 *mf* *p*

なみだと なくさめ

小さな手をさしのべ なみだとなくさめでにぎる 最初の握手 Yun Dong-ju (尹東柱)

96 *mf* *p*

そのとき あなたは傍らにいて わたしを 見守ってくれますか すると わたしは

98 *mf*

どんなに ほそ い しずかなかぜ にも 身を託し いつ も のように 眼 を 閉じ る と

100 *p* *mf*

微かなひかりの ようなふるえが 遠く から おとずれ やがてあのふるえは

102

ヌルイ優しいみず になり わたしのからだの すみずみをわたって もう 深いむねのあなに

105 *p*

そーつ と 包み 抱 いて くれる でしょう ね
(いだ)

p

し ず か に いる

107 *mf*

し ろ い み ず が ゆ き に な り

mf

と か ら だ に み ず が 沸 く

109

そ ら に か か る

p

Ji-ha nun mul
(芝河) (涙)

mf

f

p

112 *p*

ふ と 気がつくと どこから か あの かげ が ススキの 森の 中 に 自 分 の 殺 した 島 の 人 々 と 一 緒 に 眠 っ て い る

112

113 *p* *pp*

父 の 影 を の せ 吹 っ て く る の で す 消 え 去 る こ と の な い 記 憶

pp

113

p *pp*

115 *pp*

痕 跡 [つぶやき] *ppp* その 塊

ppp その 塊